

日本経済の展望探る

講師にニッセイ基礎研・^{はじ}榎浩一氏

藤田組 今後の日本経済テーマにセミナー

藤田組は7月8日、東京・日本橋のコレド室町日本橋倶楽部で企業セミナーを開催した。16回目となる今回のセミナーでは、ニッセイ基礎研究所の榎浩一氏が「今後の日本経済の展望」をテーマに講演した。

冒頭、あいさつで藤田徹常務は「日本橋は新たなコレド室町ができ、界限はますます賑わっている。この流れに乗って藤田組は昨年90周年を迎えた。今後の10年に向けて

さらに頑張っていく問題、物価、円相場、金利面などから考察した。

人口問題では、いわゆる団塊の世代の大量退職の問題を示し、約250万人いた団塊世代がリタイアする一方、新たに労働者となる若い世代が110万人しかおらず、毎年、人手不足の状況に陥っていると指摘。同氏は、「失業率はいったん下がるものの、求人では建築・土木、介護などの職種が多く、事務職の正社員は少ない。求人者の技術と、世の中で必要とされる技術がマッチングしていない」と強調した。また、人手不足を解消するには女性や高齢者の活用が重要だとし、「女性に積極的に働いてもらえる環境づくりを構



榎氏



藤田氏



012年12月以降、日本経済は、多くのエコノミストの予想に反して、大胆な金融緩和によって急激な株価上昇と円安が進んだ」と述べた上で、今後の展望について、人口

築しなければ優秀な人材を確保できない。また、高齢者は体力的な問題もあり、年齢に合った働き方を考えていかなければならない」と述べた。

さらに、10年、20年といった長期的な展望について、日本経済が将来的に円安、インフレ、金利上昇に転じる可能性も捨て切れないとした上で、「仮に、金融引き締めが行われるような場合には市場にお金が不足して資金繰りがうまくいかなくなる。高い金利を払わなければ融資が受けられなくなるなど、企業の新たな経営リスクが生まれる時代が来るかもしれない」との考えを示した。

当日は同社の顧客ら約30人が参加した。